

荻外莊近衛家關係資料



荻外莊扁額



牡丹紋蒔絵飯器及び台



近衛文麿揮毫色紙



近衛文麿肖像画

〔指定年月日〕  
 〔種別〕  
 〔名称〕  
 〔点数〕  
 〔所有者等〕  
 〔所在地等〕

平成三〇年二月二八日  
 指定有形文化財（歴史資料）  
 荻外莊近衛家關係資料  
 八六六号  
 杉並区教育委員会  
 荻窪二―四三（荻外莊）  
 大宮一―二〇―八（郷土博物館）

指定有形文化財（歴史資料）

## 荻外荘近衛家関係資料

平成二八（二〇一六）年三月一日に国史跡に指定された荻外荘（近衛文麿旧宅）は、建築家伊東忠太の設計により東京帝国大学医科大学（現東京大学医学部）教授入澤達吉の別邸（楓荻荘）として昭和二（一九二七）年に建築された。近衛篤麿（文麿父）と入澤達吉の親交もあり、同邸宅は昭和二一（一九三七）年、内閣総理大臣であった近衛文麿に譲渡され、西園寺公望により荻外荘と命名された。

荻外荘近衛家関係資料は、荻外荘に残されていた「荻外荘関係史・資料」、「近衛文隆・通隆関係史料」、「書籍資料」の三つの資料群から構成される。当該資料は、荻外荘の国史跡指定に向けた調査で発見されたが、残存していた物品は指定の対象外であったため、杉並区が二年をかけて独自に総合的な調査・整理作業を行った。この調査により荻外荘から近代以降の近衛家に伝わる物品が群をなして発見された事は、近代華族の生活史を研究する上で重要であるといえる。

「荻外荘関係史・資料」には、美術工芸品や書画絵画類、普段使いの生活用具など多岐に渡る資料が含まれている。近世の五撰家筆頭であり、近代には華族政治家として活躍した近衛家の戦前の生活様式を窺い知ることが出来る。

「近衛文隆・通隆関係史料」は、近衛文隆の後半生を網羅的に把握できる資料や近衛通隆宛山本有三、吉田茂差出書簡などで構成される。

「書籍資料」は、近衛文麿由来と考えられる書籍、近衛文隆由来だと考えられる書籍、その他一般書籍の三つに大分される。文麿由来の書籍には文麿直筆と考えられるメモ書きが多数見受けられる。

平成二八年度から二年かけて調査、整理してきた荻外荘残存資料は、その全容が明らかになったことから、本資料を平成二八年度に指定した「入澤達吉邸（楓荻荘・荻外荘）平面図・棟札（附入澤達吉邸留守居誌）」に追加指定し、指定名称は「荻外荘近衛家関係資料」に改める。

【文化財所在地】

